

(令和4年9月静岡県議会定例会)

伴 卓 議員(ふじのくに県民クラブ)の一般質問 に対する答弁

(質問日:2022/09/30 2 番目)

答弁者：知事

関係所属：健康福祉部感染症対策課

項目名：1 ワンヘルスアプローチに基づく動物由来感染症対策について

### 【質問要旨】

現在、人に感染症を引き起こす微生物は確認出来ているだけで1,400種類以上あり、このうち約60%が、いわゆる人と動物に共通で感染症を引き起こすとされている。

残念ながら、これらの感染症の発症を完全に防ぐすべを会得していないが、その原因を減らすこと、感染リスクを低減させること、また新たな感染症が発症した際に、できるだけ早く療養方法を確立することは、多くの人の命を守ることに繋がる。

これらの手法を包括した考えは「ワンヘルスアプローチ」と呼ばれている。人と動物の健康と、健全な環境が調和した社会は結果として感染症に強い環境にもなる。現在、全国的にワンヘルス政策の取組は福岡県が突出しており、2020年にはワンヘルス推進基本条例を議員提案により制定している。

知事は今年の仕事始め式で「防疫先進県を目指す」と表されており、既に実施している諸施策に加え、人と動物の健康と健全な環境の調和を図ることは必要ではないか。

現在県は感染症対策の拠点となる「(仮称)ふじのくに感染症管理センター」の設置に向けた準備が進められている。このような中で、「ワンヘルス」による動物由来感染症対策について、県の見解を伺う。

### 【答弁】

伴議員の感染症に関する様々な知見に啓発されるところが多うございました。その中で、ワンヘルスアプローチに基づく動物由来感染症対策についてお答えいたします。

人と動物の健康等と、並びに動物を取り巻く環境には関係がございます。生態系の中で両者は相互に密接につながっており、強く影響し合っているということでもあります。そうした中で、互いの健全な状態を一体的に守る「ワンヘルス」という理念、また、「ワンヘルスアプローチ」という接近方法は、動物由来感染症対策にとって重要であると考えております。

具体的対応として、蚊、あるいはダニを媒介とする感染症、ペットによる感染症などにつきましては、保健衛生部門において、監視の対策を取りますが、リスクの高い新型インフルエンザへの変異が危惧される鳥インフルエンザの対策では、家畜衛生部門や環境部門を中

心に監視を行いつつ、保健衛生部門と情報を共有しながら、全庁体制による防疫措置を取ることとしております。

また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機として、昨年度策定した総合計画後期アクションプランにおきましては、危機管理の最優先事項として「防疫対策の強化」を新しく位置付けております。人に関する感染症対策と家畜に関する感染症対策を一つの政策としてまとめたところであります。

県といたしましては、来年度に設置を予定している、仮称でございますが、ふじのくに感染症管理センターを中心に、福岡県の取組なども参考にしつつ、保健衛生部門、家畜衛生部門及び環境部門の施策の連携や情報共有を進めてまいります。

感染症の多くは、議員御指摘の通り、人獣共通感染症でありまして、新型コロナウイルス感染症の次の感染症の流行に備える上で、本県におきましても、ワンヘルスアプローチの考えを取り入れ、感染症対策を強化し、防疫先進県を目指してまいります。

以上であります。